

# フランス中等教育バカロレア受験クラスにおける 『まるごと 日本のことばと文化』使用の可能性と課題

奥山令織奈

[キーワード] 中等教育、バカロレア、CEFR、JF 日本語教育スタンダード、  
『まるごと 日本のことばと文化』

## [要 旨]

フランスでは高校卒業資格試験としてバカロレアが実施されている。2013年度実施の試験からはその試験方法および内容が CEFR の理念と規準に準拠したものに改定された。第三外国語科目試験の評価項目は口頭の産出能力、口頭でのやり取り能力、言語能力の3つであり、高校3年間の学習を通じてこれらの能力の養成が必要となる。筆者は第三外国語科目の日本語受験を希望する高校生のクラスを2年間担当し、『まるごと 日本のことばと文化』を使用して指導を行った。本稿ではバカロレアの第三外国語科目試験で評価対象となる日本語の運用能力に着目し、『まるごと 日本のことばと文化』における学習内容、学習方法と比較しながら、その有用性および問題点を報告する。

## 1. 背景

### 1.1 フランスの中等教育

国際交流基金の2012年度日本語教育機関調査結果によると、フランスの中等教育段階における日本語学習者数は4499名で全体の23.3%を占めている。その中には中等教育の修了と高等教育への進学を承認するという2つの特徴を有するバカロレア (baccalauréat) の受験を希望する生徒も多く、主に第二外国語、第三外国語として学ばれている。

バカロレアには理数 (scientifique : S)、経済・社会 (économique et sociale : ES)、文学 (littéraire : L) の3部門に分かれる一般バカロレア (baccalauréat générale)、技術系バカロレア (baccalauréat technologique)、職業系バカロレア (baccalauréat professionnel) の3種類があり、受験生は高校2年次に自分の関心に応じていずれかを選択する。

2010年9月に高等学校へ入学した学年からは、CEFR の理念と規準に準拠した新しい外国語教育プログラム (Programme d'enseignement des langues vivantes en classe de seconde générale et technologique) が適応され、それに対応して2013年度実施のバカロレアから外国語の受験方法またその内容が変更された。受験資格があるのは正規科目として学校で外国語を学習した生徒であるが、その他に課外活動や語学学校、通信教育などで学習した生徒も「自由受験者 (Candidat libre)」として受験資格を持っている。

バカロレアの外国語科目は第一外国語 (Langue vivante 1、以下 LV1) と第二外国語 (Langue vivante 2、以下 LV2) が必須受験科目であり、日本語を含む外国語22言語およびバスク語やブルトン語などのフランス地域語8言語の中から受験する言語を選択できる。また選択受験科目である第三外国語 (Langue vivante 3、以下 LV3) は、外国語46言語および地域語11言語の中から選択することができる。

それぞれの試験で求められるレベルは 6<sup>ème</sup> (中学1年) から7年間学習される LV1 が CEFR の B2 レベル、4<sup>ème</sup> (中学3年) から5年間学習される LV2 が B1 レベル、2<sup>nde</sup> (高校1年) から3年間学習される LV3 が A2 レベルである。

また各外国語の学習指導要領として国民教育省<sup>(1)</sup>が公開した「Palier 1」と「Palier 2」が存在する。「Palier」とは「段階」を意味し、「Palier 1」には CEFR の A2 レベルを目標とした学習項目が、「Palier 2」には A2-B1 レベルの学習項目が掲載されている。主に「Palier 1」は中学校の1、2年次、「Palier 2」は3、4年次に使用されるが、4<sup>ème</sup> (中学3年) から学習される LV2 と 2<sup>nde</sup> (高校1年) から学習される LV3 でも目標レベルに応じて使用される。各々の要領には受容、産出、やり取りの5技能<sup>(2)</sup>詳細、および学習項目を能動的知識<sup>(3)</sup>と受動的知識<sup>(4)</sup>に分類した表、助詞の使用例、漢字リスト、学習文化項目が掲載されている。

国民教育省は中等教育における学習プログラムを「中学生」、「高校1年生」、「高校2・3年生」の3つに分けて組んでいる。表1はそれぞれの学習プログラム<sup>(5)</sup>を参照し、各学年での週当たりの外国語科目学習時間数および使用される学習指導要領 (Palier)、目標レベルをまとめたものである。

表1 外国語科目の学習時間数、使用される Palier、目標レベル

学年	第一外国語 (LV1)		第二外国語 (LV2)		第三外国語 (LV3)	
	時間数	Palier (レベル)	時間数	Palier (レベル)	時間数	Palier (レベル)
6 <sup>ème</sup> (中1)	4	Palier 1 (A2)				
5 <sup>ème</sup> (中2)	3~4					
4 <sup>ème</sup> (中3)	3~4					
3 <sup>ème</sup> (中4)	3	Palier 2 (A2-B1)	3	Palier 1 (A2)		
2 <sup>nde</sup> (高1)	5.5		3			
1 <sup>re</sup> (高2)	4.5	(B1-B2)	4.5	Palier 2 (A2-B1)	3	Palier 1 (A2)
Ter (高3)	4		4		3	

(時間数は週当たり)

## 1.2 中等教育段階での『まるごと』使用の経緯

筆者は2012年9月から2014年6月まで日本語指導助手として国際交流基金パリ日本文化会館に派遣され、パリ郊外の Institution Jeanne d'Arc (以下、ジャンヌダルク校) で日本語クラスを2年間担当した。ジャンヌダルク校ではバカロレアのLV3の受験を希望する高校生を対象に、『まるごと 日本のことばと文化』(以下、『まるごと』)を使用して指導することとなった。中等教育向けの日本語教科書が少ないフランスにおいて、『まるごと』は成人学習者を対象に開発されているものの写真やイラストが多く、中等教育でも十分に使用できる可能性があると考え、実験的に使用テキストとして採択した。

## 1.3 本稿の目的

本稿ではフランスの中等教育機関で『まるごと』を使用した経験を基に、バカロレアのLV3試験で評価項目となる日本語の運用能力と『まるごと』における学習内容、学習方法を比較しながら、その使用の有用性および問題点を報告する。

## 2. ジャンヌダルク校のクラス概要

ジャンヌダルク校では国際交流基金パリ日本文化会館の支援を受け、2012年11月に初めて日本語科目が課外活動の科目として開講された。2<sup>nd</sup>e (高校1年) と1<sup>re</sup>e (高校2年) の混合クラスとして日本語学習を開始したが、バカロレア受験を強く希望する生徒がいたため、2年目にはバカロレア受験を希望する生徒のみがクラスに登録をした。2014年4月に実施されたバカロレアのLV3を「自由受験者 (Candidat libre)」として日本語で受験した生徒は、1<sup>re</sup>e (高校2年) で学習を開始し2年間日本語を学んだ生徒2名である。

本稿で取り上げるのは表2に記述する2012年–2013年および2013年–2014年の混合クラスである。当該クラスは課外活動科目であるため、学習時間数は表1の正規科目の時間数とは異なる。2012–2013年度は週に1課のペースで『まるごと』(入門 A1 かつどう編試用版)を使用し、2013–2014年度は『まるごと』(A1 りかい編試用版)を12週(計18時間)で終え、バカロレア受験準備に10週(15時間)を充てた。高校3年間の学習を通じてCEFRのA2レベルの日本語力を身につけ、バカロレア受験に臨むのが理想的ではあるが、ジャンヌダルク校では時間に限りがあったためA1レベルを丁寧に学習し、且つ自宅学習を課すことでバカロレアLV3受験に最低限必要な基礎力を身につけられるよう配慮した。2013–2014年度には高校1年生のクラスも開講され、5名の生徒が『まるごと』を使用した日本語クラスを受講したがバカロレア受験を希望する生徒がいなかったため、本稿では言及しないこととする。

表2 クラス概要

	2012-2013	2013-2014
学年	2 <sup>nd</sup> (高1)、1 <sup>re</sup> (高2)	1 <sup>re</sup> (高2)、Ter (高3)
学習者数	5名 (高1 : 3名、高2 : 2名)	3名 (高2 : 1名、高3 : 2名)
学習時間	週1時間×22週=年22時間	週1.5時間×22週=年33時間
テキスト	『まるごと』(A1 かつどう編試用版)	『まるごと』(A1 りかい編試用版)

### 3. バカロレアと『まるごと』

#### 3.1 LV3の試験内容および評価項目

LV3 試験は2013年度の改定以降、毎年同様の内容で実施されている。LV3の試験は口頭試験のみで、高校3年次の学年末に行われる。口頭試験で要求される語学レベルはCEFRのA2レベルであり、試験官は既定の評価表を用いて採点を行う。試験問題には受験者が学習に使用した資料を持参したものが用いられるが、その資料は文章だけでなく写真やビデオ、録音なども対象となる。また、資料は以下の4つのテーマ (Notions) と関連付けられたものとし、受験者は1つのテーマ (Notion) につき2つ以上の資料を用意する。

1. Mythes et héros (神話とヒーロー)
2. Espaces et échanges (空間と交換)
3. Lieux et formes du pouvoir (権力に関する場所と形態)
4. L'idée de progrès (進歩の考え)

また、LV3の試験は準備時間10分、面接時間20分の計30分間、以下の手順で実施される。

1. 受験者は勉強したテーマ (Notions) と学習に使用した資料のリストを試験官に提示する。
2. 試験官はテーマ (Notion) を1つ選択する。
3. 受験者は持参した資料の中から、試験官が選択したテーマ (Notion) に関する資料を発表用に2つ選択し、10分間発表の準備をする。選択する2つの資料のうち1つは200字程度の文章である必要がある。
4. 受験者は試験の前半10分間でテーマ (Notion) を紹介し、選択した資料のうち200字程度の文章を音読する。この間試験官は質問等はせず、受験者は一人で話す。
5. 後半の10分間、受験者と試験官は前半10分の発表内容に基づくやりとりを行う。

評価表は“Fiche d'évaluation et de notation pour l'épreuve de LV3”として国民教育省 (2011 : 8) が官報で公開しているものが使用される。その評価項目は大きく「A.長く一人で話す」「B.会話をする」「C.わかりやすさ/言語的妥当性」の3つに分かれており、それぞれ3段階、20

フランス中等教育バカロレア受験クラスにおける  
『まるごと 日本のことばと文化』使用の可能性と課題

点満点で評価する。

以下に、その評価項目を日本語訳したものを示す。

「A.長く一人で話す」(6点満点)

提示されたテーマを豊富に活用し、十分に表現を使うことができる(6点)

テーマについて短く簡単な発言ができる(5点)

言葉に詰まることがあっても非常に短い発話や定型表現を言うことができる(2点)

「B.会話をする」(6点満点)

やり取りの中で会話に参加することができる(6点)

簡単な返答や反応ができる(5点)

繰り返しや言い直しによって途切れ途切れであっても簡単に会話に入ることができる(2点)

「C.わかりやすさ/言語的妥当性」(8点満点)

正しい言葉で話すことができる(8点)

限られた語彙であったり間違いがあっても理解できる言葉で話すことができる(6点)

部分的に理解可能な言葉で話すことができる(2点)

評価表はLV3として受験可能な各国語の試験に共通して用いられるため、日本語と中国語にしかない音読の採点に関する明確な基準はなく、試験官の裁量で得点の低い項目にボーナスとして点数を加え、一段階その項目の評価を上げる形で行われる。

### 3.2 『まるごと』における学習の内容と方法

ジャンヌダルク校で使用した『まるごと』は、国際交流基金が「相互理解のための日本語」を理念として公開したJF日本語教育スタンダード(以下、JFスタンダード)に準拠したコースブックである。主に海外の成人学習者を対象としており、コミュニケーション言語活動を中心とした「かつどう編」とコミュニケーション言語能力を中心とした「りかい編」から構成されており、それぞれの学習トピックは共通している。JFスタンダードがCEFRを土台としているため、『まるごと』のレベルもCEFRと同様にA1からC2までの6段階で表され、またCan-doと呼ばれる能力記述文が学習目標や評価に用いられている。

かつどう編ではアウトプットの前に学習者に十分なインプットが与えられ、既知知識を用いて推測をさせたり、文型や表現などの言語形式も会話で聞いた内容からその意味や使い方を推測させるなど、学習者自身の気づきを活かす学習方法が取られている。またアウトプットの際には、モデル会話のみを練習するのではなく、自分に必要な語彙を用いて自分の言いたいこと

を話すということに重きが置かれる。かつどう編の大まかな学習の流れは以下の通りである。

1. とびらのページ用いてトピックと学習目標となる Can-do を確認する。
2. 写真やイラストを指さしながら音声を聞き、語彙や表現の意味を確認する。
3. 会話を聞き、内容を推測しながら理解する。
4. 3で聞いた会話の中にある表現を使用して、ペアで会話練習をする。
5. 授業の後で学習目標が達成できたか Can-do をチェックする。

りかい編においても十分なインプットが与えられる。また会話と文法を関連付けて学習することによって学習者はどのような文脈でその文法、句型を用いるかを無理なく理解できるように構成されている。動詞や形容詞の活用の学習もなされるが、従来の教科書のように様々な動詞の活用を一度に学ぶのではなく、そのトピックに必要な動詞のみを扱うということも特徴と言える。りかい編の大まかな学習の流れは以下の通りである。

1. かつどう編での学習を踏まえながらトピックと学習目標となる基本文を確認する。
2. 写真やイラストを指さしながら音声を聞き、語彙の確認をする。漢字の練習をする。
3. 場面／文脈の中で会話と文法を結び付けて理解し、文の構造やルールを理解する。
4. 3で学習した表現を使って会話練習をする。
5. トピックに関する作文や読解をする。
6. 授業の後で場面に即した日本語の使い方を理解できたかをチェックする。

また文字学習の負担を軽減するために入門 (A1) かつどう編では全編に渡って、りかい編では10課までローマ字が併記されている。

### 3.3 バカロレアで測られる能力と『まるごと』での学習

前述のとおり、LV3 試験の評価項目は「長く一人で話す」「会話をする」「わかりやすさ／言語的妥当性」の3つである。『まるごと』を使用した学習では、「会話をする」というやり取り能力は多くの会話のインプット、アウトプットの機会を活用することで、また「わかりやすさ／言語的妥当性」という言語能力に関してはりかい編での学習によって養成されることが期待できた。

「長く一人で話す」という口頭での産出能力に関しては、様々な表現を使用して連続した発話をするのが高得点につながる。しかしながら『まるごと』ではトピックの中で自分の言いたいことを話す練習は多くあるものの、それらのトピックがバカロレアのテーマ (Notions)

と重ならないため、使用できる表現、語彙には限りがある。『まるごと』を使用しながら、10分間連続して自分の言いたいことを話すための応用力をつけるためにはどのようにしたらよいかを考える必要があった。また受験者が持参する資料に用いられる既習の漢字にはふり仮名をふってはならないため、文字の学習も別途行う必要があった。

## 4. 実践例

### 4.1 『まるごと』を使用したコースデザイン

ジャンヌダルク校では、初年度に『まるごと』（入門 A1 かつどう編試用版）を週に1課のペースで使用し、10課と18課の後にそれぞれ「テストとふりかえり」を行った。人数が5名と少数であったため、1回60分という時間であっても十分に会話練習の時間を取りながら進めることができた。また、『まるごと』は成人向けの教材として開発されたが、扱われる内容とレベルは高校生が使用しても問題なく、「テストとふりかえり」もパリ日本文化会館のJF日本語講座に通う一般成人と同様の手順で実施することができた。

『まるごと』では必ずしも文字学習をクラス内で行う必要はないとされているが、LV3の試験を受験するには文字学習は必須である。そのためひらがな、カタカナを毎回10字ずつ宿題として課し、ローマ字表記に頼らないようにするため板書にはローマ字を使用しないようにした。また質問などのやり取りを除いては、フランス語は使用せず主に日本語で授業を行うようにしたり、生徒自身が話したい内容に必要な語彙や表現を学習する時間を十分確保できるようにペアでの会話練習の時間を長めに設けるようにした。

2年目は『まるごと』（A1 りかい編試用版）を18時間使用した。2に記述したように『まるごと』を使用した学習を終えた後にLV3の受験準備を予定していたため、かつどう編同様1課60分のペースで進める予定を組んでいたが、かつどう編が1課4～5ページほどなのに対し、りかい編は7～8ページと学習内容が多く、課が進むにつれて予定通りに学習を進めるのは難しくなっていた。そのため作文や読解の問題は宿題として課すことが多かった。作文と読解では特に学習者に音読をさせる指示はないが、LV3試験の音読対策として授業中にまとまった量の文章を音読するようにした。また、『まるごと』のトピックを越えた発話を産出する際、語彙の知識だけでなく動詞の活用も必要になると考え、その練習も時間を取って行うようにした。LV3受験に必要な漢字として学習指導要領「Palier1」に挙げられている漢字は145字であり、そのうち『まるごと』（A1 りかい編）で学習される漢字は50字である。『まるごと』（A2-1 りかい編）で学習される漢字はそのうちの67字であり、A2-1のレベルまで学習できれば大部分を網羅することができるが、いずれにしても漢字学習は『まるごと』とは別に取り入れる必要があった。

りかい編における漢字学習では漢字を読む練習はあるものの書く練習は特に用意されていない

い。LV3には筆記試験はないため必ずしも書けるようになる必要はないが、定着を図るために教室では書き順の説明をし、書く練習を行った。当該クラスでは『まるごと』のA1の漢字を扱う時間しか取れなかったため、A2-1レベルで学ぶ漢字、また国民教育省(2007:23)の「Palier1」に挙げられている漢字のうち『まるごと』のA1、A2-1のレベルでは学習されない以下の28字については、バカロレア受験準備としてテーマ(Notions)について学習する中で取り入れるようにした。

曜、々、田、力、飯、門、売、立、内、夕、家、米、犬、牛、鳥、馬、物、字、名、方、貝、竹、糸、早、長、短、明、暗

バカロレア受験準備としては「Mythes et héros(神話とヒーロー)」、「Lieux et formes du pouvoir(権力に関する場所と形態)」の2つのテーマ(Notions)を生徒たち自身が選択した。「Mythes et héros(神話とヒーロー)」では「忠犬ハチ公」、「Lieux et formes du pouvoir(権力に関する場所と形態)」では「江戸時代の生活」についてそれぞれ学習した。

#### 4.2 LV3 試験への有用性と課題

一通り『まるごと』(A1)の学習が終わった後、「江戸時代の生活」に関するテキストを読ませた。そのテキストには未習の文法や語彙が多く含まれていたが、生徒たちは理解できる言葉を拾い、意味を推測しながら読み進めることができていた。また自分の言いたいことを話す練習を常に行っていたためか、テキストの内容をまとめる際に既に学習した表現と新たな語彙を組み合わせて発話することもそれほど困難でないように見受けられた。

やり取りの能力に関してはかつどう編、りかい編ともに、会話のインプットとアウトプットの機会が十分にあるため『まるごと』を使用していく中で特別な練習は必要とせずとも生徒の聴解力が徐々につき、自然な相槌や返答ができるようになったと感じた。それに加えて学習が進むにつれて発話することに抵抗がなくなり、自ら質問をするなどして積極的に会話を継続しようとする様子も見られた。

生徒の言語能力についてもインプットの多さとりかい編での練習により語順や文法ルールなどが身につけており、未習の表現を言い表そうとする際も全く理解ができないような語順で話すということはなかった。また発音やイントネーションに概ね問題がなかったことも自然な日本語のインプットが多いことによると考えられる。

学習者が『まるごと』を使用した日本語学習をどのように評価したかを調査するために、2年間学習した3名の生徒にアンケートを実施した。アンケートはフランス語で作成し、回答もフランス語で記入してもらった。その結果を日本語訳したものを表3に示す。



フランス中等教育バカロレア受験クラスにおける  
『まるごと 日本のことばと文化』使用の可能性と課題

表3 『まるごと』を使用した日本語学習についてのアンケート結果

質問1 授業について
<p>【1-1：授業に満足していますか。】 大変満足（3名） 満足（0名） やや不満（0名） 大変不満（0名）</p>
<p>【1-2：それはなぜですか。】 「面白かったし、新しい言語を学ぶのはいつも興味深いです。」 「私たちのクラスは人数が少なく、授業中にたくさん質問ができましたが、人数の多いクラスではそうはいかなかったと思います。」 「このような勉強ができるのは本当に素晴らしいと思います。それに、私は自分が既に持っていた知識を深めることができました。」</p>
<p>【1-3：授業で改善すべき点があれば書いてください。】 「テーマごとに語彙を勉強したりする前に基礎を知りたかったです。また文法や動詞の活用をもっと勉強したかったです。」 「日本語の文章はフランス語と同じ形で作られていないので、動詞の活用や文法をもっと勉強したかったです。」</p>
<p>【1-4：授業で他に勉強したかったことはありますか。】 「特に語彙と文法を勉強したいです。」 「たとえば高校で使う言葉など、異なる場面で使用される日本語を勉強したかったです。」</p>
質問2 テキストについて
<p>【2-1：『まるごと』の教科書に満足していますか。】 大変満足（1名） 満足（2名） やや不満（0名） 大変不満（0名）</p>
<p>【2-2：それはなぜですか。】 「よく構成されていると思います。会話の例もわかりやすいです。」 「この教科書で学習するのはとてもいいです。しかし、文法と動詞の活用をもっと勉強できたらよかったです。」 「いい教科書だと思いますが、登場人物が風変わりだと思います。文章の下にフランス語訳がついているといいと思います。」</p>
<p>【2-3：この教科書で使いづらかったところはありますか。】 「特に問題はなく、理解しやすかったです。聴解の録音がもっと長ければよいと思います。」 「この教科書は他の教科書に比べるとむしろいい教科書だと思います。」</p>
<p>【2-4：『まるごと』の学習法はあなたに合っていますか。】 「いい学習方法だと思います。でも、文法と動詞の活用の学習がもっと多いといいと思います。」</p>

「CDを聞いたりフレーズごと覚えることはいいと思いますが、書く練習が少ないと思います。」

「はい。でも私はフレーズや日本語訳を暗記するのは好きではありません。フランス語の翻訳があれば覚えたり、理解するのが簡単になると思います。」

質問3 Can-do チェックについて

【3-1：授業開始前に「Can-do」や「きほんぶん」を確認しますが、授業をよりよく理解するために役立ちましたか。】

はい（3名） いいえ（0名）

【3-2：それはなぜですか。】

「取り組みもうとしているテーマがわかりました。」

「授業が始まる前にその課で勉強する目的がわかりました。」

「目標はフランス語で書かれていたので、あとで日本語のフレーズを聞いたときに、簡単に文の意味を推測することができました。」

アンケートでは授業とテキストについての満足度は概ね高かったが、「文法と動詞の活用をもっと勉強したかった」という意見が目立った。フォローアップインタビューを行った際、具体的にはどのように学習したかったか尋ねたところ、「より良い学習のためにはかつどう編とりかい編を交互に使用してトピックごとに文法をきちんと学習したかった」、「自分の言いたいことを表現するためには語彙だけでなくたくさんの動詞の活用を覚える必要がある」、「A2のレベルまで学習したかった」という意見があった。

上記のような理由から受験の際、生徒たちは実力に不安があったようだが、試験後に生徒の一人からは受験結果が20点満点中16点であったとの報告があった。今回のクラスでは『まるごと』（A1）での学習を通じて、LV3試験で評価される3つの運用能力の基礎的な部分を養成し、そこに漢字、音読、そして動詞の活用の学習を加えることでこのような結果を得ることができたと考える。

試験結果は生徒にとって満足の行く結果となったようだが、当該クラスは初年度は週当たり1時間、次年度は1.5時間と非常に学習時間が少なかったために、アンケート結果からも見られるように日本語学習としては不十分な部分があった。『まるごと』（A2-1）までの学習項目で「Palier1」に挙げられている学習項目の約8割を押さえることができるため、さらに運用能力を伸ばし、自信をもって受験に臨めるようにするためにも『まるごと』（A2-1）のレベルまで学習する必要があると思われる。正規科目のLV3クラスであれば週に3時間の学習時間があり、2<sup>nd</sup>（高校1年）で『まるごと』（A1）、1<sup>st</sup>（高校2年）で『まるごと』（A2-1）を使用し基礎力をつけ、Terminale（高校3年）でバカロレア対策をするというコースデザインも十

分に考えられる。課外活動科目であっても今回の実践以上に『まるごと』を丁寧に使用することで、さらに学習者の運用能力はLV3試験で求められるレベルに近づくのではないかと考える。

## 5. まとめ

以上、フランスの中等教育段階での『まるごと』使用クラスの実践に関して、バカロレアのLV3試験で評価される日本語の運用能力と、『まるごと』における学習内容、学習方法を比較しながらその可能性と課題について報告した。2013年にバカロレアの外国語試験の内容が改定されてから、フランスの中等教育の現場ではその教育内容、指導法が議論的となっている。『まるごと』はコミュニケーションを重視した学習内容であること、またCEFRと同様のレベル設定であること、イラストや写真が多く中高生が興味を持ちやすいことなどを理由に、数校のバカロレア受験を目指すクラスで既に採択され始めている。本稿が中等教育の現場で『まるごと』を使用している方々、また今後の使用を検討している方々の参考となれば幸いである。

謝辞：本稿の執筆にあたって多大なるご助言を賜ったアイルランド教育・技能省の近藤裕美子先生に厚く御礼申し上げます。

### 〔注〕

- <sup>①</sup> 参考文献の出典では *Ministère de l'éducation nationale* と表記する。
- <sup>②</sup> 聞く (*Compréhension de l'oral*)、読む (*Compréhension de l'écrit*)、長く一人で話す (*Expression orale en continu*)、書く (*Expression écrite*)、やり取り (*Interaction orale*)
- <sup>③</sup> 産出可能な知識としての学習項目 (*Compétences actives*)
- <sup>④</sup> 理解可能な知識としての学習項目 (*En reconnaissance*)
- <sup>⑤</sup> 中学生用プログラムとして“*Les horaires par cycle au collège*”、高校1年生用プログラムとして“*Les enseignements de la classe de seconde*”、高校2・3年生用プログラムとして“*Grilles horaires du cycle terminal de la voie générale : séries ES, L et S*”を参照した。

### 〔参考文献〕

- Ministère de l'éducation nationale. (2007). *Palier1 Bulletin officiel hors-série n° 7 du 26 avril 2007 sommaire*, pp.9-24. Paris : le Services, culture, éditions, ressources pour l'Éducation nationale (SCÉRÉN CNDP-CRDP)
- (2011). *Fiche d'évaluation et de notation pour l'épreuve de LV3. Bulletin officiel n° 43 du 24 novembre 2011 Annexe*, p.8. Paris : Ministère de l'éducation nationale
- 国際交流基金「日本語教育国・地域別情報《フランス》2012年度日本語教育機関調査結果」  
<<http://www.jpff.go.jp/j/japanese/survey/country/2013/france.html>> 2014年8月24日参照